

まちの出来事

ファンに大人気 ファイターズのマスコットB・B



▲B・Bとの記念撮影

北海道日本ハムファイターズの球団マスコット「B・B」は2月末、紋別を訪れ、野球少年や地域住民など200人ほどと交流しました。野球少年たちはサインを求めたり、一緒に記念撮影に収まったりと大喜びでした。

日ハムは札幌ドームに本拠地を移して3年目。「B・B」の訪問は、より道民に親しまれる球団をめざして道内すべての市町村（平成の大合併前の212市町村）を7年がかりで巡回する「212物語」

の一環。各地では交流や街の様子をハイビジョン撮影し、編集した映像を札幌ドームでの試合の間（8回表終了後）にフルカラー大型ビジョンで紹介します。

紋別訪問は、同球団紋別後援会（森安春会長）の尽力などにより、全道で第1号に選ばれました。

紋別で収録した映像は、3月26日の東北楽天戦で初公開されました。次は4月7日の西武戦の8回表終了後に放映される予定になっています。

生涯学習の決意新たに ことぶき大学204人が卒業・終了

高齢者らが、手芸、パソコン、パークゴルフなどの趣味をいきいきと学んでいる生涯学習機関・紋別市ことぶき大学（学長 西田教育長）の平成17年度卒業式・修了式が3月2日、市民会館で開かれまし

た。卒業生・修了生ら155人が出席し、西田学長から卒業証書、修了証書を受け取りました。

今回の卒業・修了生数は4年間の本科学士課程を終えた卒業生27人をはじめ、3年間の修士課程や博士課程を終え



▲西田学長から卒業証書が手渡されました

た人、また単年度の各学年課程を修了した人など、あわせて204人。

西田学長が式辞を述べ、「皆さんは長寿社会の先達として、さらに活躍していただき

「横滑りしない！」 最新ブレーキシステムの試乗会

ブレーキシステムの開発・製造を行っているコンティネンタル・テーベス社（本社 横浜市）の紋別テストコース（沼の上、旧紋別空港跡地）で3月4日、自動車ブレーキシステムの体験試乗会が開かれました。参加した市民ら約27人が、同社が開発した最新のブレーキシシステムを搭載した車を実際に運転して、その効果を実感しました。

体験した最新のブレーキシシステムは「ESC」（エレクトロニック・スタビリティ・コントロール）と呼ばれるもので、横滑りを防止する装置です。急なハンドル操作時や

たい」とあいさつ。来賓からは宮川市長が祝辞を寄せました。

これを受けて卒業生代表（本科学士課程）の讃岐巴津子さんが謝辞を述べ、「これからも健康に留意し、さらに修士課程、博士課程に挑戦したい」と意欲を見せていました。



▲片輪がアイスバーン、片輪がアスファルトの坂道で一瞬停止し、発進する試乗車

滑りやすい路面を走行中に、車の横滑りを感知すると、コンピュータ制御により、各車輪に適切にブレーキをかけて



▲学院歌斉唱に涙する卒業生たち

また卒業生代表の八巻ひとみさんは答辞で「命の重みを心の中に置き、看護の仕事にあたっていきなりたい。ここで得た友人は一生の財産になります」などと声を詰まらせながら述べ、お世話になった恩師や両親に感謝していました。

道立紋別高等看護学院（学院長Ⅱ及川郁雄・道立紋別病院長）で3月7日、第30回卒業証書授与式が行われ、3年間の課程を終えた29人（うち男性5人）に、及川学院長か

道立紋別高等看護学院 「命の重み、心の中に」 29人が卒業、看護師に

車両の進行方向を修正、維持します。体験乗会では空港滑走路内のテストコースに設けられた坂道、円周路、直進路など各種コースで、その性能を体

ら卒業証書が手渡されました。卒業生たちは学院歌に涙し、恩師らに感謝しながら学舎を後にしました。及川学院長は式辞で「今後自分の能力に限界を設定せず、自分を信じて大きくはばたいてほしい」などと卒業生を激励。宮川市長も祝辞を寄せました。

験。参加者らは「本当に、横すべりしない」「雪道でも、すこく安定して走れる」などその威力に驚いた様子でした。



▲船おろしされ着漁準備が進められているホタテ漁船

市営船揚場で冬ごもり（冬季上架）に入っていたホタテ漁船の船おろしが3月9日から次々に行われ、着漁の準備を始めました。大漁旗をなびかせ、化粧直しを終えた沿岸漁船では、乗組員らは「さあ、ことしも豊漁を」と張り切っています。



▲高値をつけた春ニシン

2月17日に史上2番目に早い「海明け」を迎えたため、沖合底引船の春の初水揚げ、操業が次第に活気づいてきました。春といえは「春ニシン」。今春は高値を呼び、3月12日に初漁したニシンは同14日の

春ニシンなど初漁 沖合底引船が操業を再開

紋別漁協市場で、1箱（木箱約18キロ）が1万4800円の高値をつけました。45日間の自主休漁を終えて、昨春より5日早く底引船団4隻は操業を解禁しました。

イガタ紋別造船（村田正樹代表取締役）が管理する同市営船揚場で、船体の補修やペンキ塗りなどを行っていました。

た。チャーターする漁船は試験船2隻を含む全18隻の桁引き漁船。今季のホタテ漁獲目標は3万トンで、前沖と湧別境界で漁場造成に着漁します。6月から始まる本操業の操業海区は、資源量の豊富な小向沖。沿岸の柱として昨年続く豊漁が期待されています。

ホタテ漁船が勇壮に 化粧直し終え、船おろし

同学院によると卒業生のうち28人は道内の医療機関へ就職（管内は16人）し、残る1

人はより高度な資格を目指して進学するということです。